

次世代総合教育会議 発表資料

- | | | | | |
|---|----------|----|----|----|
| 1 | 高知小津高等学校 | 嶋本 | 遥 | 委員 |
| 2 | 高知工業高等学校 | 藤村 | 陽輝 | 委員 |
| 3 | 高知ろう学校 | 岩田 | 桃未 | 委員 |
| 4 | 清水高等学校 | 扇喜 | 賢児 | 委員 |
| 5 | 土佐高等学校 | 金子 | 明弘 | 委員 |

学校名	県立高知小津高等学校	氏名	嶋本 遥
-----	------------	----	------

1. 自身や友人等の経験や、本やニュースで知ったことなどを踏まえて、今の「学校」の仕組みや授業の内容、ルール等について、良いと思うところ、変えたら良くなると考えるところ、そのように考えた理由やキッカケ。

【良いところ】

・ 7時間授業、補習、模擬試験、スタディーサポート（学力定着把握検査）

高知小津高校は大学進学を希望している生徒が多いため、7時間授業や補習で学力の定着や自主学習の習慣を身に付けることができる。また、模擬試験やスタディーサポートを実施する事で、今の自分の学力はどれくらいあるのかや、どの大学が自分に合っているのかが分かる。

・ 総合探究活動

1年の時に行った地域フィールドワークや現在行っている課題研究などにより、高知県の課題や私達が出来ることについて話し合い、地域の方や大学生などに関わる事や自分達で話し合い、課題を解決するためには何が必要かを考える事ができた。友達同士で様々な意見を交換することや高知県の現状や課題を知ることは大切である。

【変えたら良くなること】

・ 聞く授業 自分達で話す、考える授業

今の授業は聞く授業が多く、話し合ったり、自分の意見を十分に考える時間が少ない。なぜなら、授業単位が少なく教える時間も限られているからだと思う。聞いているだけで理解出来ないことも多い。また、話し合う時間はあっても数十秒間なので自分の意見をちゃんと伝えられない。相手の意見を聞き、自分の意見を伝える事で理解ができると思っているので授業中にもっと考える時間と話し合う時間を増やしたらいいと思う。

・ 校則

校則を変えるのではなく、なぜこういう校則があるのかを説明してほしい。生徒の中にはなぜこの校則はあるのか、本当に必要なのかと思っている人も多いと思うので校則の必要性を伝えてほしい。

・ 行事

体育祭やホームマッチなどの練習時間が少ない。みんなで楽しむ事も大切だが、勝つためにもみんな真剣にやっている所以練習する時間をもっと設けてほしい。

2.1.の内容を踏まえて、「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿」とはどういうものなのか。その理想的な姿を実現するためには何が必要なのか。

・ **学校外との繋がり**

学校という枠を超えて地域の方との繋がりや他校の生徒との繋がりがあつたらいいと思う。1年の時に行ったフィールドワークみたいに大学生や地域の方と交流する事で新たな発見や地元である高知県のことについて深く知ることができると思う。

・ **個性を伸ばすことのできる環境**

個性を伸ばすことで自信を持って自己主張ができたり周囲に流されず自分らしさを出ることができる。周りに流されず自分の芯を貫き通せる人は少ないと思う。自分らしさを隠して何でも周りに合わせてしまう人は学校でも多い。しかし、そういう人が多い社会になってしまうと、ストレスを抱える人や不登校になる人が増えてしまう。また、面接など必要な場面で自分の意見を伝えられないかもしれない。そこで、まずは自分の意見が言いやすいような環境を作ることが大事だと思う。友達には信頼関係があるから言いやすい。だから、コミュニケーションをとって信頼関係を築く事が必要だと思う。

・ **社会に通用する実力が身に付く授業**

学力や専門知識はあってもコミュニケーションが上手く取れなかったり考える力が無かったりすると社会では通用しないと思う。学校では色々な個性を持つ人や性格が違う人が大勢いる。そこで、学生の時からたくさんの人とコミュニケーションをとって語彙力を増やすことで社会に通用する力が身に付くと考えた。そのためには、1の【変えたら良くなること】で書いたのと同じように、自分達で話し合い、考える授業をつくるのがコミュニケーション能力を高めることに繋がると思う。2年生の総合の時間に課題研究をしているが課題研究ではテーマを立て、問いを立て、仮説を立てるというように自分達で話し合いながら活動している。こういうすでに答えのある問いではなく、自分自身が思う答えを探す授業がまさに大切だと思う。

・ **大学の事を詳しく知っている、アドバイスをくれる先生**

最終的に大学を決めるのは自分自身だが、あなたはこういう個性があつてこういう事が得意だからこの大学が合っているのではないかというようなことを言ってくれる先生がいると心強い。また、生徒の意見に対して全て肯定するのではなく、ここはこうすべきだとアドバイスをくれる先生がいるといい。

3.1.や2.を記載するにあたって、どのような形で意見や考え方をまとめたのか。

学校の友達に意見を聞いて、参考にしながら自分でまとめた。



次世代総合教育会議

高知県立高知小津高校 2 年 嶋本 遥



【高知小津高校について】

- 令和5年度
創立150周年
- 大学進学希望者が多い
- 質の高い「文武両道」
- 施設が整っている



【良いところ】

- ・ 7時間授業
- ・ 土曜補習
- ・ 模擬試験
- ・ スタディーサポート
(学力定着把握調査)

・ 課題探究

普通科「探究基礎」「課題探究」
理数科「理数探究基礎」「理数探究」

- ・ 学力の定着
- ・ 自主学習の習慣
- ・ 進路実現

普通科

- ・ 高知県の課題についての
課題解決学習

理数科

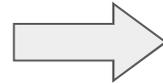
- ・ 自然科学分野についての
課題解決学習

【変えたら良くなること】

- ・ 聞く授業



自分達で話す、考える授業



- ・ 校則

校則の理由や必要性の理解

【理想的な学校の姿】

・ 学校外との繋がり

・ 個性を伸ばすこと
のできる環境

・ 社会に通用する実力が
身に付く授業

・ フィールドワーク

・ コミュニケーション
・ 友達との信頼関係

・ 課題研究
・ 自分自身の意見



学校名	県立高知工業高等学校	氏名	藤村 陽輝
-----	------------	----	-------

1. 自身や友人等の経験や、本やニュースで知ったことなどを踏まえて、今の「学校」の仕組みや授業の内容、ルール等について、良いと思うところ、変えたら良くなると考えるところ、そのように考えた理由やキッカケ。

良いと思うところ

- ・産業高校では、専門的な技術を身につけ、社会で活躍できる人材を育成している。
実際にものづくりやフィールドワークなどの体験し、実物の細かな構造や素材がわかったり、専門家・企業・地域の方などを招いた授業などで、専門的な学びができた
り、ものづくりで知識を活用することで深い学びになる。
社会に出て役立つ資格を取得でき、資格対策の授業がある。
- ・産業高校では、実習や課題研究をとおして、問題解決する力が身につく。
高知工業高校は「イノベーション KT」と呼ばれる独自の探究活動を行い、生徒の自
ら力を磨き、自主性や仲間と協力することが学べる。
自分の得意分野を生かしたテーマ設定などにより、自分の強みを磨くことができる。
- ・みんなが学校に登校し機に向かい、同じ教室で同じ時間を共有する。
コロナ禍で授業がオンラインになり、ペアやグループでの学習が制限されており、
物理的にも、心の面でも距離を感じていたが、制限が解除され大切さがわかった。
- ・タブレットの導入によって、調べ物や意見共有がしやすくなった。
動画やアニメーションの活用で視覚的に理解しやすくなった。
- ・高知工業高校は就職進学とともに選択肢が幅広く、先生方のサポートも手厚い。
歴代の先輩方が作り上げてきた伝統があるため進路先からの信頼がある。
- ・高知工業高校は部活動に力をいれている。
文化部、運動部ともに部活動数が多く選択肢が多い。

変えたら良くなると考えるところ

デジタル化を進める。

- ・タブレット導入についての問題点を改善する。
多くの生徒が同時に使用するとネット環境が悪くなり作業がスムーズに行えない。
制限が厳しく調べたいものが調べられないことがある(材料価格を調べる時など)。
- ・教科書や配布物をデジタル化する。
高知工業はロッカーがないのに、教科書は分厚く重たい。定時制と教室が共用のため、
すべての荷物を持ち帰る必要があり荷物が重い。
プリントなどをなくす心配がなくなる。
ペーパーレス化で資源削減につながる。
- ・日常生活や将来の仕事で生かせる授業をさらに充実させる。
オンラインで海外の方と話す授業など英会話教育をもっと充実させる。

授業スタイルを柔軟にする。

例えば、50分の授業時間、授業時数、選択科目、などを学校ごとに柔軟にできるようにすれば、もっと学びたいことが学べる学校になる。

少人数で深く話し合い学びあう時間を多く取り入れることで理解がすすむ。

授業中に水分補給できるなど、自分のペースで授業を受けやすい環境をつくる。

男女によるルールの違いをなくす。

性別を理由にした校則（制服、髪形など）があるから。

学校の改修をする。

高知工業高校は施設が古く段差が多い。トイレも汚く、匂いもひどく利用しづらい。

2.1.の内容を踏まえて、「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿」とはどういうものなのか。その理想的な姿を実現するためには何が必要なのか。

「型にとらわれない柔軟な学校」

・柔軟な学びができる学校

一人一人がなりたい自分や目標をもとにものづくりのテーマを決め、そのために必要な勉強を自分で選択でき、実践的に学べるようにするべきだ。その方が、主体的になり学びが深まる。

・生徒の声を柔軟に取り入れる学校

今の学校は、意見を出しても聞き流されたり、うやむやにされたり、フィードバックがなかったり、そもそも声を上げてもいいような雰囲気がない。そのため、あきらめの感情をうんでいる。意見を聞くことがゴールではなく、意見を取り入れて改善することがゴールになる学校が理想。生徒から出た意見をどう取り入れていくかを、生徒と先生が時間をかけて話し合う機会を設けるべきだ。

3.1.や2.を記載するにあたって、どのような形で意見や考え方をまとめたのか。

全校生徒にアンケートをとり、生徒会執行部、校長先生、先生と話し合った。また、「高校生の社会参加に関する意識調査報告書 - 日本・米国・中国・韓国の比較 - 」(令和3年6月発行)も参考にした。

理想的な学校の姿とは。

高知工業高校 藤村 陽輝



高知工業高校について



1年生

開発力を育てる集団活動 「ものべーション」



高知工業高校での「発表活動」「集団活動」等は、
必ず「失敗バネカ」の成長へとつながる

課題を分析し将来への具現化を目指すための企画 「SDGsを考える・提案する」

高知県の現状

高知県が抱えている問題

- 高知県は約10年全国に先行して過疎化、高齢化が進んでいる。
- 県内市場の縮小と県外資本の進出により、経営環境の厳しさが増している。
- 児童・生徒の学力・体力は全国より低い。
- 利用者の減少による路線バスなど公共交通機関の減便、運賃値上げ。



5

SNSで高知県を発信

メインターゲットは若者

1

高知県に住んでいる人に向けて

- ・若者の県外流出が課題であるから
- ・地域で作られたものを買ってもらうため
- ・地域活動に積極的に参加してもらうため

2

高知県に住んでいない人に向けて

- ・高知への移住者をもっと増やすために
- ・高知県産のものを県外の人にも買ってもらおう
- ・高知には素敵な場所がたくさんあることを知ってもらうため

11

様々な視点で見直し、環境の改善や提案を目指す。

「課題研究」



地域の企業（約100名）や中学校、保護者、同窓生を招き
工業教育の理解を深めてもらうことを目的としている。



今の学校の「いいと思うところ」

産業高校ならではの良さ

- ・専門的な技術を身につけられる。
ものづくりやフィールドワークなどの体験したり、専門家、企業、地域の方などを招いた授業がある。
社会に出て役立つ資格を取得でき、資格対策の授業がある。
- ・実習や課題研究を通して、問題解決する力が身につく。
高知工業高校では「イノベーションKT」と呼ばれる独自の探究活動を行っている。
自分の得意分野を生かしたテーマ設定などにより、自分の強みを磨くことができる。

今の時代になり感じる良さ

- ・みんなが学校に登校し机に向かい、同じ教室で同じ時間を共有する。
- ・タブレットの導入により、調べ物や意見交換がしやすくなった。

高知工業高校の良さ

- ・就職進学ともに選択肢が幅広く、先生方のサポートも手厚い。
- ・部活動に力を入れている。



理想的な学校の姿

変えたらよくなると考えるところ。





「変えたら良くなると考えるところ」

- (1) デジタル化を進める
- (2) 授業スタイルを柔軟にする
- (3) 男女によるルールの違いをなくす
- (4) 学校の改修

(1) デジタル化を進める

- **タブレット導入についての問題点を改善する。**
多くの生徒が同時に使用するとネット環境が悪くなり作業がスムーズに行えない。
制限が厳しく調べたいものが調べられないことがある。
- **教科書や配布物をデジタル化する。**
高知工業高校はロッカーがないのに、教科書が重く分厚い。定時制と教室が共用のため、荷物を全て持ち帰る必要があり荷物が重い。
プリントを無くす心配がなくなる。
ペーパーレス化で資源削減に繋がる。
- **日常生活や将来の仕事で生かせる授業をさらに充実させる。**
オンラインで海外の方と話す授業など英会話教育をもっと充実させる。
実際に社会人になっても使うことが多いエクセルやタイピングの授業を行う。

(2)授業スタイルを柔軟にする

- 例えば、50分の授業時間、授業時数、選択科目、などを学校ごとに柔軟にできるようにすれば、もっと学びたいことが学べる学校になる。
 - 少人数で深く話し合う時間を多く取り入れることで理解が進む。
 - 授業中に水分補給できるなど、自分のペースで授業が受けやすい環境をつくる。



(3)男女によるルールの違いを無くす

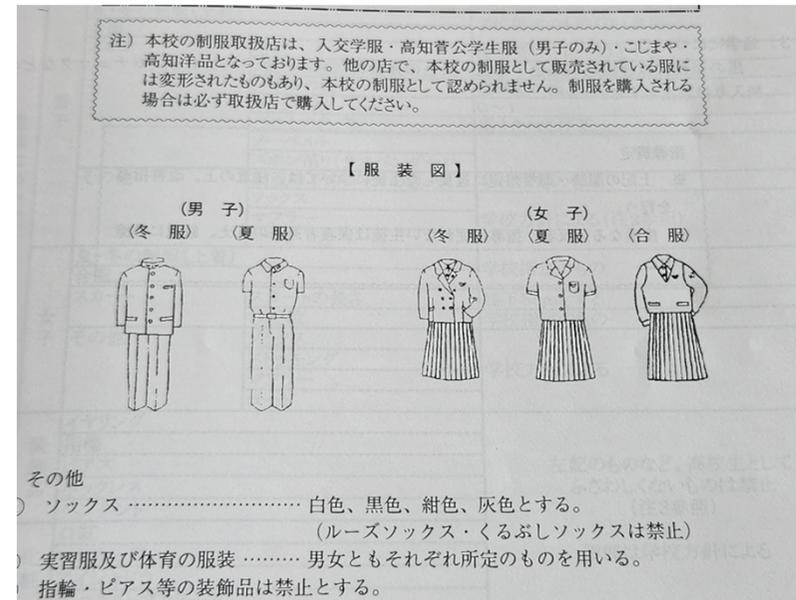
性別を理由にした校則が(制服、髪型など)があるから。

4) 高知地区高等学校 服装・頭髪等に関する指導方針

高知県高等学校地区別生徒指導連絡協議会

性別	指導項目	指導方針	
		横	後
男子	頭髪の長さ	耳にかぶさらない	襟にかからない
	パーマメント		
	カール		
	眉・額等の剃り込み		禁止
	毛染・脱色 リーゼント		禁止
女子	頭髪の長さ	肩にかからない程度を原則とする 肩にかかる場合は、編むか結ぶ	
	パーマメント		
	カール		
	毛染・脱色		禁止
	眉の剃り込み等 ヘアバンド・リボン ヘアピン		禁止
夏・冬の制服(上着)		学校指定のもの(注1参照)	
合服		標準型(ストレート)とする	
スボン	形状		

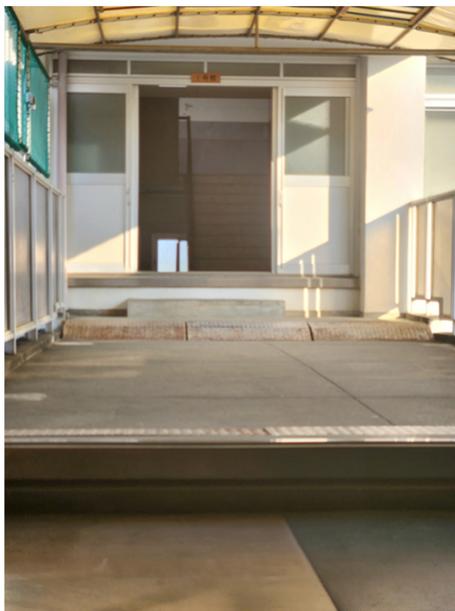
高知地区高等学校 服装・頭髪等に関する指導方針



高知工業高校の制服についての校則

(4)学校の改修

高知工業高校は施設が古く段差が多い。トイレも汚く、匂いも酷く利用しづらい。





理想的な学校の姿

理想的な姿を実現するためには何が必要なのか。





「型にとらわれない柔軟な学校」

「柔軟な学びができる学校」

一人一人がなりたい自分や目標をもとにものづくりのテーマを決め、そのために必要な勉強を自分で選択でき、実的に学べるようにするべきだ。その方が、主体的になり学びが深まる。

「生徒の声を柔軟に取り入れる学校」

今の学校は、意見を出しても聞き流されたり、うやむやにされたり、フィードバックがなかったり、そもそも声を上げてもいいような雰囲気がない。そのため、諦めの感情をうんでいる。意見を聞くことがゴールではなく、意見を取り入れて改善することがゴールになる学校が理想。生徒から出た意見をどう取り入れていくかを、生徒と先生が時間をかけて話し合う機会を設けるべきだ。

学校名	県立高知ろう学校	氏名	岩田 桃未
-----	----------	----	-------

1. 自身や友人等の経験や、本やニュースで知ったことなどを踏まえて、今の「学校」の仕組みや授業の内容、ルール等について、良いと思うところ、変えたら良くなると考えるところ、そのように考えた理由やキッカケ。

児童生徒が少ないので、アットホームで、意見を言いやすいと思います。

給食があり、全校幼児・児童・生徒・教員全員が食堂で食べていますが、残った牛乳を持ち帰れないことに疑問を持ったことがきっかけで、残飯の多さにも着目し、フードロスを減らせないかと考えています。校内外の関係機関と連携をとって調査したうえで改善に向けて取り組みたいと思っていますが、県内の高校には給食がないため同世代の人たちに調査協力してもらうことが難しく、調査の範囲が限定されることが課題です。できる範囲で工夫してみたいと思っています。

2. 1. の内容を踏まえて、「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿」とはどういうものなのか。その理想的な姿を実現するためには何が必要なのか。

生徒も教員も、より良い学校づくりについて関心を持ち、それについて一人一人が意見を持つだけでなく、それを学校全体で共有し、必要であれば改善していける体制と行動力のある学校。それを実現するためには、意見や不満をただ出すだけでなく、改善のための具体案を一人一人が考えて提案し、多くの人の協力を得ながら実際に動いていくことが大切だと思います。

3. 1. や 2. を記載するにあたって、どのような形で意見や考え方をまとめたのか。

個々の意見を集約し、クラスで話し合いました。



食品ロス

学校から地域へ

高知県立高知ろう学校

高知ろう学校

☆よいところ

☆変えたらよくなるところ

☆理想とする学校

☆よいところ

- ・ 少人数なのでみんなのことを知っている。
- ・ 小さいころから知っているなので遠慮がなく、意見を言いやすい。
- ・ 行事など学校全体で取り組みやすい。
- ・ 先生の指導が丁寧で質問などしやすい。
- ・ ICT環境が整っている。
- ・ 給食は食堂で全員で食べる。

☆変えたらよくなるところ

- ・固定された集団なので、他校との合同授業ができればよい。
- ・自分たちの取組を全校に発信できる場を作ってほしい。
- ・地域との交流を積極的に行う。
- ・授業の中にボランティア活動などを取り入れる。

☆理想とする学校

- ・自分たちができる社会貢献を自分たち自身で考え、実施できる学校
- ・地域との交流を積極的に行い、学び合える学校
- ・自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校

テーマに食品ロスを選んだ理由は、2つあります。

1つ目は、給食で余った牛乳を持って帰りたいと生徒から意見がありました。しかし、**学校給食法**で持って帰ってはいけないことが定められているので、できませんでした。

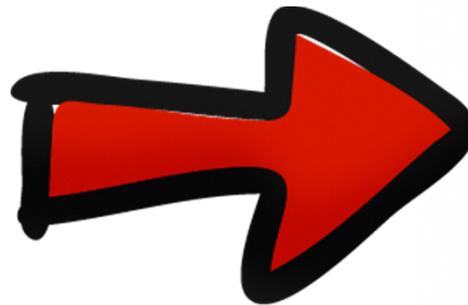
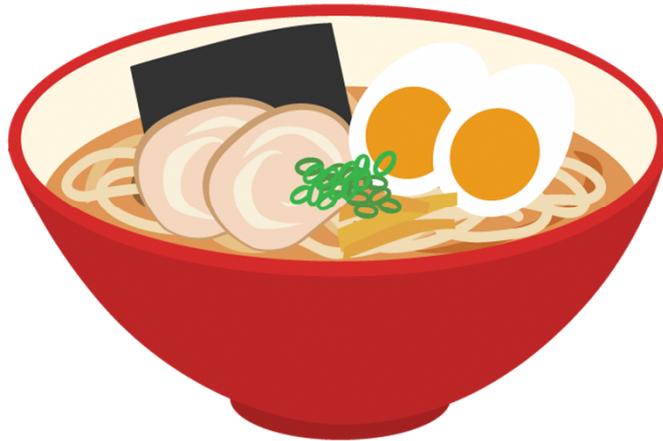
余った牛乳は捨てられてしまうので、もったいないと思ったことがきっかけです。



2つ目は、生徒のリクエストメニューの

ラーメンの麺が残飯として3kg残ってしまったことを見て、毎日の残飯の量に関心をもつようになりました。

(隣のみかづき分校と一緒に計算)



学校給食残食率をグラフにしました。



残飯の量については、学校栄養職員の中村さんも考えていて、4月にご飯の量についてのアンケートを行っていました。内容は、教師・生徒のそれぞれの適切なごはんの量に関することです。



何かできることはないか...

私達はまずご飯に着目し、どうしたら残飯を減らせるか考えてみました。



しかし、中村さんはどうやったら適切なご飯の量を分けることができるのか悩んでいたのもので、一緒に作戦を考えました。



私たちは2つの対策を練りました。



対策 6月9日から実施

- ・それぞれ希望の量のところに名前を書いたシールを机に貼る。

普通の量(200g)、やや少なめ(175g)、少なめ(150g)の3つに名前を分けて、配膳する人に見てもらいながら分けてもらいました。



三瓶 穂中

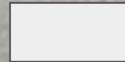
水町

徳田

小野山

水町

三瓶 十ヶ所



三瓶 少名

大代

芝田

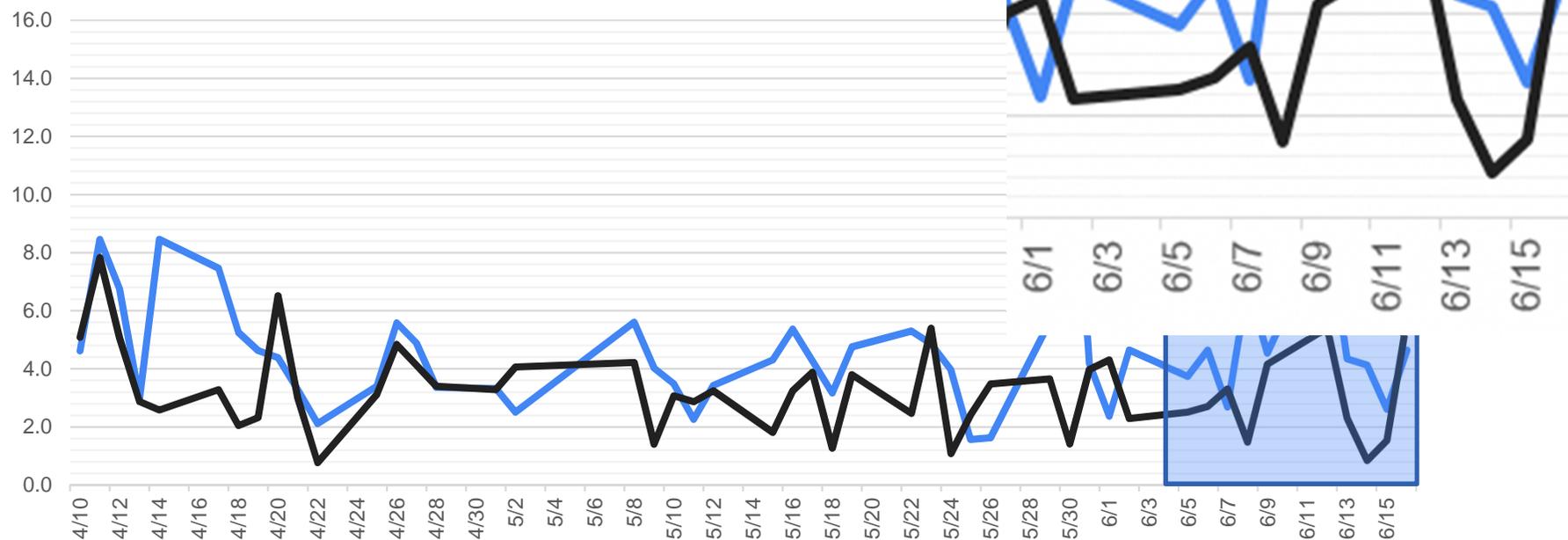
野志



学校給食残食率をグラフにしました。

学校給食残食率

— 主食残食率 — 副食残食率



対策 6月16日より実施

- ・自分の適量（多い、少ない）を調整する。
- ・食べることのできないものは周りの人にあげる。

★まずは個人の「食べ残し」を減らすことを考えました。

結果、

ごはんの適量について取り組んできましたが、廃棄する食品の量はそれほど以前と変わっていませんでした。

個人の食べ残しの量は減っても、
全体で廃棄する量を減らせるわけ
ではありません。



しかし、食べ残すという行為を減らすことになり、**生徒や先生**
の意識改革に繋げることができたと思いました。



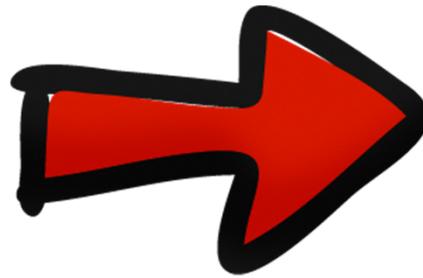
この取組は、引き続き
行っていきます。
さらに、残飯の有効活
用も考えていきたいと
思います。

そこで、

再度 私たちにできることは何か考えました。



ターゲットを、学校から地域に広げました。



そして、

私たちは学校の近くで以前から交流のある**子ども食堂**に着目しました。



子ども食堂では、大きく4つのことを行っています。

子どもたちがおなかいっぱい食べられるように、食事の提供

放課後の宿題や自主勉強をする「水曜校時カフェ」を開く

子どもたちの居場所作り

食材支援

私たちにできることは何か？

子ども食堂の代表のところにあいさつに行き、私たちにできることは何か話し合いをしていきたいと思います。



☆理想とする学校

- ・自分たちができる社会貢献を自分たち自身で考え、実施できる学校
- ・地域との交流を積極的に行い、学び合える学校
- ・自分たちが考えた取組を自分たちで発信できる学校

学校名	県立清水高等学校	氏名	扇喜 賢児
-----	----------	----	-------

1. 自身や友人等の経験や、本やニュースで知ったことなどを踏まえて、今の「学校」の仕組みや授業の内容、ルール等について、良いと思うところ、変えたら良くなると考えるところ、そのように考えた理由やキッカケ。

良いと思うところ

・生徒主体の活動

今の授業の仕組みで生徒が先生に扮し逆転授業を行ったり、与えられた課題について生徒たちで話し合い結論を出す活動などから、座学中心で受け身の授業ではなく生徒が主体的に取り組んで活動する時間が多くあることがいいところだと思います。

・校外活動が多い

校外に出て自分の体験や経験を発表する機会が多くあり、これにより堂々とプレゼン等を行えるようになりました。この活動が、自分自身を見直すきっかけにもなり自分の意見を持つことで新しい自分の発見にも繋がっています。特に清水高校は生徒数が少なく皆平等にチャンスが回ってくるのがいいところだと思います。

変えたら良くなる場所

・科目選択の幅を広げる

科目選択の幅を広げていけば、自分の興味のある分野を深く学ぶことができるようになり、生徒の授業に対する楽しさや面白さが増えていくと思います。さらに、学校側がすでに用意した科目から選択する以外に、生徒自身が科目を作り生徒が授業（例：釣り、歌）を行うような授業があれば面白くなると思います。（生徒と先生の交流を深める目的もあります。）

・生徒主体のルールづくり

教師主体の校則のなかに禁止されている理由が不明なものもあるので、ある程度校則は残しておいて生徒も学校の新しい校則づくりに積極的に関与できるようになればよりよい学校づくりができると思います。（現在生徒が1年間の中でルールづくりに関与できるのは5月に行われる生徒総会の1回のみ）

2.1.の内容を踏まえて、「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿」とはどういうものなのか。その理想的な姿を実現するためには何が必要なのか。

- ・座学中心の受け身の学習スタイルを変え、逆転授業やグループワークなど生徒主体の活動を多く取り入れたスタイルが理想的な学校の姿だと思います。
- ・生徒が主体的に物事に取り組み、生徒の行ってきた活動が十分に認められる。
- ・学びのスタイルを大きく変える。（生徒主体であくまで教員は補助）
- ・教室で椅子に座る時間を減らす。（フィールドワークを増やす）高知県なら特に周りの自然を生かしていくべき。
- ・別の高校との合同学習（各自の高校で行ってきたことをディスカッションをする、ファシリテーターも高校生）
- ・朝起きたときにわくわくして行きたくてたまらなくなるような学校 = 自分がやりたいことが学べる 伝えられる 共感がもらえる学校

3.1.や2.を記載するにあたって、どのような形で意見や考え方をまとめたのか。

クラスメイトと話し合いを行いました。

次世代総合教育会議

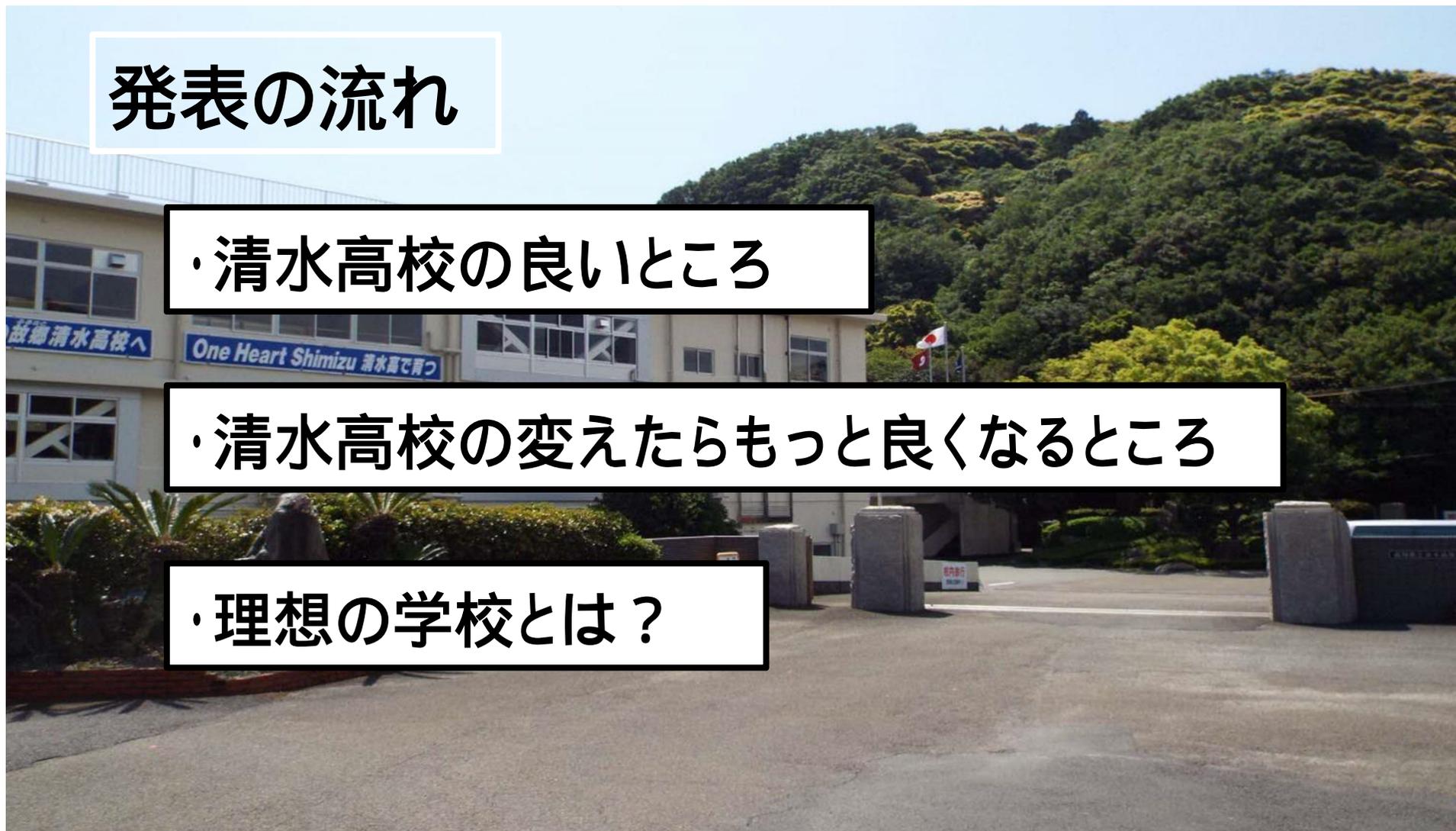
清水高校3年 扇喜 賢児

発表の流れ

・清水高校の良いところ

・清水高校の変えたらもっと良くなるどころ

・理想の学校とは？



良いところ



受け身

主体性



話し合い



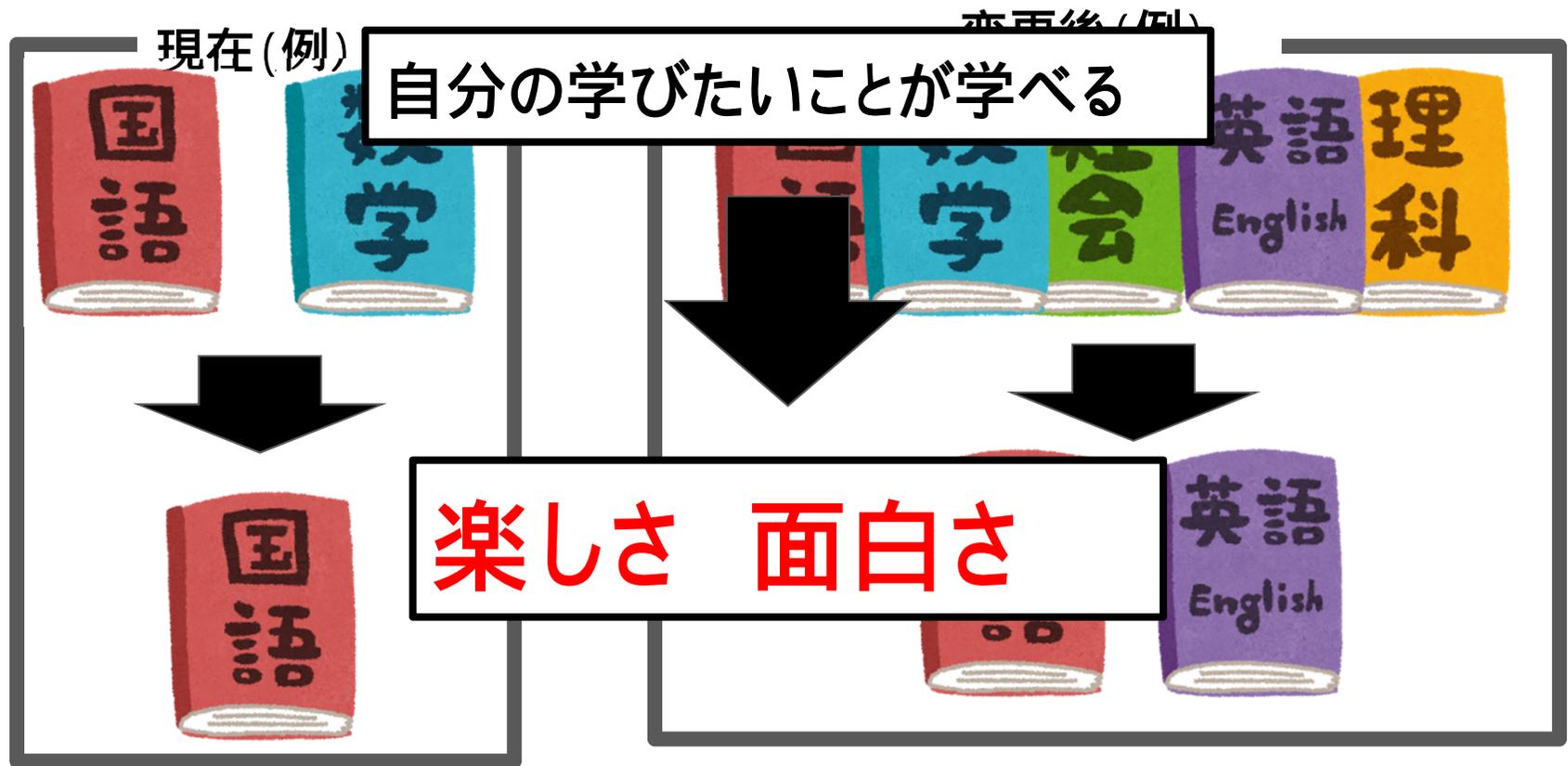
逆転授業

良いところ



見直し → 自信 新しい自分の発見

変えたら良くなるどころ



変えたら良くなるどころ

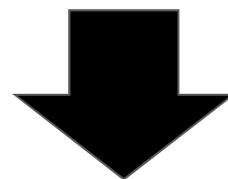
土佐清水市と
関連付けた総合学習



この分野は自分の
得意分野だ！



生徒 → 教師



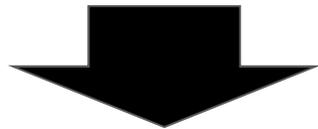
授業

主体的な取り組み

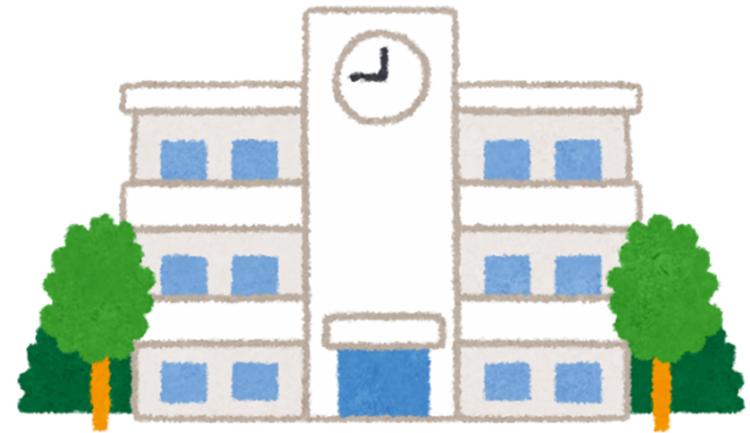
変えたら良くなるところ

ルールづくり

現在：1度(5月の生徒総会)



変更後：3度(学期ごと)



良い学校づくりへ

理想的な学校の姿とは？



フィールドワーク



逆転授業

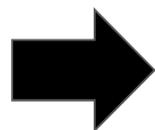


生徒主体の授業

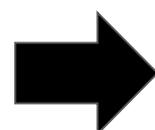


理想的な学校の姿とは？

興味のある分野について主体的に取り組む



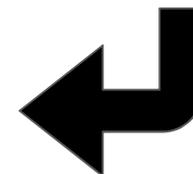
その活動の成果を報告・発表する



その活動が認められる、共感される



自信 学ぶ意欲の向上



ご清聴ありがとうございました

学校名	土佐高等学校	氏名	金子 明弘
-----	--------	----	-------

1. 自身や友人等の経験や、本やニュースで知ったことなどを踏まえて、今の「学校」の仕組みや授業の内容、ルール等について、良いと思うところ、変えたら良くなると考えるところ、そのように考えた理由やキッカケ。

- **クラス分け**

土佐では文理によるクラス分けはなく、文系と理系とが交ざったクラスで3年間を過ごす。様々な人と交流できるクラスというのは、多様な考え方や価値観を知り、自分の知識を広げることに役立つだろう。そのため、私は文理によらないクラス分けは良いと思っている。

- **生徒会**

生徒会の主な仕事は、クラスマッチなどのイベントの運営や校則の変更へ向けた活動である。このような活動の経験は、将来何かをする(例えばイベントを主催する、起業するなど)といった時に役立つだろう。

また、土佐では、生徒会長と副会長は高2以下全員が投票する選挙によって選ばれる。これは、将来選挙に行き政治に参加することについて考える良いきっかけになるかもしれない。

- **授業の仕組み**

現在では、受ける授業は学年によって決まっていて、授業内容はその学年の平均的なレベルに合わせられることが多い。一方、同学年でもある科目が得意な人、苦手な人がいる。そのため、授業が難しすぎてついていけない人や、簡単に感じて皆に合わせて授業を受けるのが苦痛に感じている人がいる。

また、受けたい授業が受けられない人もいるようだ。例えば、同学年の文系の友達に聞いたところ、数学を学びたいけれど、文系だからその授業を受けられないと言っていた。自分の受けたい授業をある程度自由に受けられるのが理想だと私は考える。

- **勉強のできる人が活躍できる機会**

運動部に所属していて、スポーツが得意な人にとっては、運動会や体育の授業など皆から注目されたり、活躍できる機会が多くあるように思われる。しかし、勉強が得意な人にはそのような機会が少ないように感じる。このような機会は学習に対するモチベーションにつながると思うので、多い方が良いように感じる。

2.1.の内容を踏まえて、「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿」とはどういうものなのか。その理想的な姿を実現するためには何が必要なのか。

まず、自分の受けたい授業や、自分に合った授業を受けられるようにする仕組みが必要だと思う。このために、授業選択の幅を広げるのが良いと思う。例えば、文系の人に向けた数学を扱う授業や、受験では使わない予定の理科、社会の科目を学べる授業を受けられるようにしてほしいと考える。このような授業は任意で受けられるようにし、朝や放課後の時間を使って開講するのが良いと思う。

また、科目ごとに飛び級ができるような仕組みがあればいいと思う。これにより、自分が得意な科目は早く先に進め、苦手な科目は自分の学年で勉強することが可能になるだろう。

次に、数学や理科などの大会をより高頻度で開催してほしい。これは学校レベルのものでも、県レベルのものでも良いと思う。現在、部活に所属している人にとっては、自分の実力を確かめたり、他校の同じ部活の人と交流したりできる大会などで、自分の力を発揮できていると思う。このような場が、勉強が得意な人にとってもあるべきだと思う。これは、得意な人の能力を高め、将来社会の役に立つ人を育てるのに必要だと思う。

3.1.や2.を記載するにあたって、どのような形で意見や考え方をまとめたのか。

意見を出し、まとめるために同じ学年の友達と話したり、校長先生と担任の先生と話し合ったりした。また、自分の学校と他の学校との違いを知るために他校の友達とも何度か話した。

理想の学校教育について

土佐高等学校 2-N 金子明弘



現在の状況

良いと思う点

1. クラス分け
2. 生徒会

変えたら良くなると思う点

1. 授業の選択の幅
2. 科学系の大会の充実

ー 1 クラス分け

土佐の場合...

- 50人 × 6クラス
- 文理の交ざったクラス分け

→生徒同士での価値観、考えの共有が可能

－ 2 生徒会

イベント運営 校則改正へ向けた活動

→将来のイベント運営、起業などに役立つ？

生徒全員が投票

→実際の選挙について考えるきっかけ？



－ 1 授業の選択の幅

授業が簡単/難しすぎて辛い

数学 を勉強したい(文系)

物理、化学に加えて地学も勉強したい(理系)

－ 1 授業の選択の幅

提案
飛び級の仕組み

提案
朝、放課後の追加クラス

－ 2 科学系の大会

運動が得意な人の場合

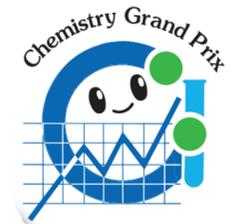
- 学校でのイベント(運動会、クラスマッチ)
 - 部活での大会
- 注目を浴びる機会

→ 勉強が得意な人にもこんな機会が欲しい！

－ 2 科学系の大会

提案

学校での大会(科学オリンピックなど)の宣伝



提案

学校or県レベルでの大会の開催

→科学への興味を高めるきっかけにもなる？